



## 2019年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2019年2月4日

上場会社名 株式会社ダイショー 上場取引所 東  
 コード番号 2816 URL http://www.daisho.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 松本 洋助  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 堀脇 裕之 (TEL) 092-611-9340  
 四半期報告書提出予定日 2019年2月8日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2019年3月期第3四半期の業績 (2018年4月1日~2018年12月31日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	16,279	1.3	813	△8.2	827	△7.0	556	△5.2
2018年3月期第3四半期	16,065	4.2	886	24.3	889	25.0	586	26.5
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2019年3月期第3四半期	57.65		—					
2018年3月期第3四半期	60.79		—					

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第3四半期	14,837	8,168	55.1
2018年3月期	13,973	7,808	55.9

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 8,168百万円 2018年3月期 7,808百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
2019年3月期	—	9.00	—	—	—
2019年3月期(予想)	—	—	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2019年3月期の業績予想 (2018年4月1日~2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,800	6.5	740	20.9	740	20.1	440	11.1	45.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2019年3月期3Q	9,868,800株	2018年3月期	9,868,800株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2019年3月期3Q	216,088株	2018年3月期	216,044株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2019年3月期3Q	9,652,730株	2018年3月期3Q	9,652,756株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善、設備投資の増加など、緩やかな景気の回復が持続しているものの、国内の消費は底堅くも力強さに欠け、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、人口減少による内需が伸び悩むなか販売競争が激化する一方で、消費者の価値や差別化を求める意識の高まりや根強い節約志向への対応が求められるなど、厳しい経営環境が続きました。

このような状況のもと、当社は、中期経営計画の最終年度にあたり、「成長分野である業務用製品の積極的な売上拡大」と「生鮮向け製品などの主力製品分野での安定的な売上確保」の実現という基本方針を踏襲し、経営環境の変化に対応した販売体制・開発体制のさらなる増強とともに、新製品開発によるラインアップの充実と販売プロモーションの積極的展開に取り組み、業績の向上に努めました。

製品群別の概況は、以下のとおりであります。

液体調味料群においては、小売用製品では、主力製品の「焼肉のたれ」類が順調に売上を伸ばし、家族で手軽に話題の人気メニューが楽しめる『ポークチャップの素』、『サラダチキンの素』などの新製品を投入いたしました。鍋用スープでは、人気の辛味系ポテトスナックの味を鍋で再現したコラボレーション製品『コイケヤ監修 カラムーチョ鍋スープ ホットチリ味』を新たに投入し、売上を大きく牽引いたしました。また、主力シリーズにおいても新製品の投入、リニューアルを行うなど、「コク」、「うまみ」にこだわったラインアップを一層強化し、売上に貢献いたしました。一方で暖冬による鍋つゆ市場の低調の影響を大きく受けることとなりました。業務用製品では、販売チャネルごとの専任部署を新設するなど、営業組織・人員の拡充をさらに推し進め、顧客のニーズに適合したメニュー開発・提案を強化したことにより、大きく売上を伸ばしました。この結果、売上高は115億18百万円（前年同期比102.7%）となりました。

粉体調味料群においては、『味・塩こしょう』シリーズは詰め替え用を中心に堅調に推移いたしました。青汁類などの小売用製品は厳しい販売環境下で苦戦を強いられました。この結果、売上高は29億77百万円（前年同期比97.5%）となりました。

その他調味料群においては、新製品『ピーマンの春雨炒め用セット』を投入し、ラインアップの充実により「野菜春雨炒め」シリーズは売上を伸ばし、その他業務用製品は伸長しましたが、売上高は17億83百万円（前年同期比99.6%）となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は、162億79百万円（前年同期比101.3%）となりました。利益につきましては、原材料価格は安定して推移したものの、物流コスト、燃料費、労務費・人件費関連コストの増加を吸収するには至らず、営業利益は8億13百万円（前年同期比91.8%）、経常利益は8億27百万円（前年同期比93.0%）、四半期純利益は5億56百万円（前年同期比94.8%）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ8億63百万円増加し、148億37百万円となりました。固定資産が総資産の51.8%を占め、流動資産は総資産の48.2%を占めております。主な資産の変動は、「受取手形及び売掛金」が15億27百万円増加し、「現金及び預金」が3億94百万円、「建物及び構築物」が1億9百万円、「リース資産」が1億5百万円減少したことによります。

負債は、前事業年度末に比べ5億3百万円増加し、66億68百万円となりました。流動負債が負債合計の72.8%を占め、固定負債は負債合計の27.2%を占めております。主な負債の変動は、「買掛金」が4億16百万円、「未払金」が2億39百万円、「短期借入金」が1億円増加し、「賞与引当金」が1億80百万円減少したことによります。

純資産は、前事業年度末に比べ3億60百万円増加し、81億68百万円となりました。主な純資産の変動は、剰余金の配当1億73百万円の支出と四半期純利益5億56百万円の計上等により「利益剰余金」が3億82百万円増加したことによります。自己資本比率は55.1%となり、前事業年度末に比べ0.8%下降しました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期決算短信(2018年5月8日公表)において発表いたしました通期の業績予想からの変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①原価差異の繰延処理

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産または流動負債として繰延べる方法を採用しております。

②税金費用の計算

当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2018年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,642	1,248
受取手形及び売掛金	3,113	4,641
商品及び製品	748	811
原材料	334	356
その他	270	113
貸倒引当金	△18	△26
流動資産合計	6,092	7,145
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,380	2,270
土地	2,675	2,677
リース資産(純額)	880	775
その他(純額)	884	770
有形固定資産合計	6,820	6,493
無形固定資産	39	24
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,022	1,174
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	1,021	1,173
固定資産合計	7,880	7,691
資産合計	13,973	14,837

(単位:百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2018年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,584	2,001
短期借入金	300	400
未払金	1,169	1,409
未払法人税等	189	161
賞与引当金	382	202
その他	588	677
流動負債合計	4,214	4,852
固定負債		
退職給付引当金	441	433
役員退職慰労引当金	763	762
その他	745	620
固定負債合計	1,950	1,816
負債合計	6,164	6,668
純資産の部		
株主資本		
資本金	870	870
資本剰余金	379	379
利益剰余金	6,610	6,993
自己株式	△114	△114
株主資本合計	7,746	8,129
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	61	39
評価・換算差額等合計	61	39
純資産合計	7,808	8,168
負債純資産合計	13,973	14,837

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自2017年4月1日 至2017年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)
売上高	16,065	16,279
売上原価	9,246	9,340
売上総利益	6,819	6,939
販売費及び一般管理費	5,933	6,125
営業利益	886	813
営業外収益	15	26
営業外費用	12	12
経常利益	889	827
特別損失	1	9
税引前四半期純利益	887	817
法人税、住民税及び事業税	300	261
四半期純利益	586	556

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第3四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

該当事項はありません。